

KNOW

NEWS
LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2026.3
第114号



公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center

ヘルスケア イノベーションを 推進しています。

ヘルスケア イノベーション。

それは健康を第一に考え、より美しく、より楽しく、
充実した日々を過ごしたいと願う人々への
佐藤製薬からの提案であり、企業理念です。



佐藤製薬株式会社

www.sato-seiyaku.co.jp
〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-27

NEWS LETTER

2026.3・第114号

C O N T E N T S

随想

- 「今そこにある危機」
警視庁刑事部 薬物銃器対策課長 河内 良夫 1
- かいせつ
- 薬物乱用防止に関わるライフスキルの育成、活用
京都女子大学心理共生学部 教授 西岡 伸紀 2
- 誌上研修
- 身近にも悩んでいる人はきつといる。だからこそ、今、
みんなで考えよう。
ライオンズクラブ国際協会 336-B地区 青少年育成・ライオンズクエスト委員 藤原 利幸 6
- 2025年度「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金状況 13
- シンガポール政府による若者をターゲットとした薬物乱用防止
キャンペーン「Uninfluenced(アンインフルエンスト)」の紹介
事業部長 菅家 奈央 14
- 「第六次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要
令和7年7月29日 薬物乱用対策推進会議 16
- センターだより 24
- 令和7年度 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動地区大会 26
- ご寄付団体及び賛助会員 27



「今そこにある危機」

警視庁刑事部
薬物銃器対策課長

河 内 良 夫

今年、世界は驚愕と戦慄をもって新年を迎えました。

突如、米軍の大部隊が、南米ベネズエラの首都を攻撃し、現職の大統領夫妻を身柄拘束して、ニューヨークへ移送、その容疑はコカイン密輸罪でした。報道各社は、反米政権交代や石油利権を狙ったもの等、さまざまな背景を伝えていますが、その根底にはアメリカが直面している喫緊の課題「麻薬問題」が存在していることは間違いありません。

アメリカでは、80年代から主にコロンビアで密造された大量のコカインが流入し、若者を中心として薬物中毒が蔓延化し、社会問題となりました。トム・クランシー原作の人気小説CIA情報分析官ジャック・ライアンシリーズにもコロンビア麻薬カルテルと戦う物語が登場します。この小説は、平成6年に映画化され、ハリソン・フォードが主演を務め、日本でも大ヒットしましたが、その題名は「Clear and Present Danger(今そこにある危機)」。この物語でも現実の世界同様、アメリカ政府はカルテルと対抗するために戦闘部隊を送り込んでいます。

そして、2010年に入り「史上最悪の麻薬」フェンタニルが登場、毎年10万人とも言われる死者を出しているこの麻薬を、アメリカ政府は昨年12月、大量破壊兵器に指定し、核兵器・化学兵器・生物兵器と同等の格付けとしました。

アメリカでは、薬物犯罪は国家的危機なのです。

さて、この話は我が国にとって、決して「地球の裏側の遠い国の出来事」ではありません。

私は今後、日本で最も警戒すべき違法薬物は「コカイン」であると考えています。

毎朝、私のデスクには、昨日分の警視庁管内すべての警察署における薬物検挙の報告が上がって来ますが、ここ数年、日本人若年層のコカイン検挙が異常に目につきます。それも未成年者や学生などです。

日本では、違法薬物の代表と言えば覚醒剤です。しかし、その序列が今後、逆転するかも知れません。

10年前の平成27年、警視庁における覚醒剤の検挙人員は1603人、昨年の令和7年は1102人と減少傾向にあり、その内訳は40～50代の再犯者がほとんどです。

ところが、コカインについては、平成27年は44人であったところ、令和7年は415人と10倍近くに増加し、しかも昔は外国人が6割近くを占めていたところ、今では日本人の29歳以下の若年層が7割を占め、ほぼ初犯者なのです。こういう状況から、覚醒剤のヘビーユーザーは一定数残ると思いますが、数十年後には、コカインが数で上回る可能性があるのです。

コカインの危険性は、効果時間にあると言われます。覚醒剤と同じ「アッパー系ドラッグ」に分類され、神経を興奮させ、多幸感を得られる作用を有しますが、その効果は覚醒剤と比べ、非常に短い時間で切れるため反復使用に陥りやすく、さらに一定量を超えると死に至る可能性があり、コントロールが難しいとされています。コカインが蔓延すれば、今以上に薬物中毒者が拡大する危険性が高いのです。

また、コカインは、主にコロンビア、ボリビア、ペルーなど南米原産の植物であるコカの木から製造されるもので、化学物質を前駆体として、どこでも製造できる覚醒剤と違い、中南米の麻薬カルテルが利権を独占しているのです。

南米でのコカインの密造量が増大しているとの情報がある中で、アメリカが麻薬カルテルをナルコテロリストと指定して軍事力を行使し、麻薬運搬船を攻撃している現状は、カルテルが、コカインマーケットの矛先を北米からアジア・オセアニアに移行することは自然であり、まさに日本はコカインの需要が高まりつつある地域なのです。新たなマーケットを模索中の中南米の麻薬カルテルにとって、裕福でコカインの需要が広まる日本は魅力的に映るでしょう。

すでに日本への覚醒剤の密輸を繰り返し敢行しているメキシコ麻薬カルテルにとっては、商品を覚醒剤からコカインに変えるだけであり、そう難しいことではないはずです。むしろ、2000年代に入って取り扱うようになった覚醒剤より、昔から馴染みのあるコカインの方が扱いやすい商品なのかも知れません。

もう一つの懸念事項があります。

アメリカで多くの死者を出し、大量破壊兵器にまで指定されたフェンタニルですが、これをアメリカで意図的に拡散したのはメキシコ麻薬カルテルだと言われています。アメリカをフェンタニルの一大マーケットとして構築したのです。

そのアメリカへフェンタニルを供給しているのも、日本へ覚醒剤を密輸しているのも、同じメキシコ麻薬カルテルだということです。このまま、フェンタニルの日本への流入はない、と断言できる理由はどこにもありません。

覚醒剤、コカイン、そしてフェンタニル…

まさに今、日本にとって中南米の麻薬カルテルは「Clear and Present Danger(今そこにある危機)」なのです。

警視庁は、こうした国際情勢の変化を踏まえながら「供給の遮断」と「需要の根絶」を推進してまいりますので、御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

薬物乱用防止に関わる

京都女子大学心理共生学部 教授

ライフスキルの育成、活用

西岡 伸紀

1. ライフスキルとは？

喫煙、飲酒、薬物乱用の開始には、不十分な知識や低い意識、好奇心等の個人的要因、及び仲間からの誘い、入手しやすさ、メディア、不適切な情報等の社会的要因など多様な要因が影響します。防止教育としては、薬物乱用等の有害性、開始要因、防止対策等に関する知識の習得、健康重視の意識の向上に加え、多様な開始要因への対処能力の形成が必要になります。その対処に有効とされる心理的・社会的能力の代表例がライフスキルです。

WHOのライフスキル教育プログラム(1997)によれば、ライフスキルは「日常生活上の様々な課題に適切に対処するために必要な心理社会的な能力」と定義されています¹⁾。さらに「ライフスキルとは、心理社会的能力と対人関係スキルの一群であり、十分な情報に基づいた意思決定、問題解決、批判的・創造的思考、効果的なコミュニケーション、健全な人間関係の構築、他者との共感、健康的で生産的な生活への対処と管理を助けるものである。ライフスキルは、個人的な行動や他者に対する行動だけでなく、周囲の環境を健康に役立つものに変えるための行動にも向けられる」とされています(WHO、健康のためのスキル、2003)²⁾。

ライフスキルの定義は一般的ですが、一つの具体例としては、意思決定、目標設定、コミュニケーション、ストレス対処等のスキル(能力)、及び基盤として自尊心の形成等が挙げられます。

ライフスキルを重視するのは、それが青少年期の様々な危険行動の防止に有効であるためです。危険行動は健康や生命に重大な影響を及ぼすもので、具体例としては、喫煙、飲酒、薬物乱用、問題となる性行動、過食・拒食などが挙げられます。危険行動の特徴は、青少年期に多発し進行するリスクが高く、相互に関連性が強いことです。すなわち、複数の危険行動が併せて抱えられることが稀ではありません。私達は、相互の関連性の背景に共通要因としてライフスキルの形成が不十分であることと捉え、各危険行動の個別の健康教育、例えば薬物乱用防止教育に加えて、ライフスキルの育成、活用を進めてきました。

日本の健康教育では「スキル」は馴染みが薄いかもしれません。WHO「健康のためのスキル(2003)」では、スキルを「通常、特定の行動を実行できるようにする能力」とし、例えば「ライフスキルとその他の実践的な健康関連スキルから構成される」としています。その他のスキルとは、応急手当、

衛生(手洗い、歯磨き等)、性の健康(コンドームの使用法)などの実践的なスキルや技能を指しており、ライフスキルはこれらとは異なり認知性がより高いスキルであることがわかります³⁾。

ライフスキルは、複数の具体的スキルを含む幅広い「心理社会的な能力」です。危険行動を含む青少年の多岐にわたる課題に対しては、機能が異なる複数のスキルを習得し活用することが有効と考えられます。例えば、対人関係の課題に対しては、課題に対する選択肢などを考える意思決定スキル、相手と関わるためのコミュニケーションスキルが必要になります。ストレスの原因に働き掛けたたりそれを軽減したりするストレス対処スキルも有効かもしれません。

ライフスキルを育成するライフスキル教育は、クラス、学年、学校等全ての子供達を対象として、一次予防を重視しています。子供達は各スキルの行い方や使い方(方略)を理解し習得し、課題に適用して対処能力を高めます。なお、ライフスキル教育の有効性は課題への対処、いわばマイナスをゼロにするだけに留まりません。例えば、自他の自尊心を高めること、子供達の相互理解を深め良い友人関係やクラスメートとの関係を形成することなども図ってお

薬物乱用防止に関わる

り、QOLの向上等のプラスの側面も視野に入れています。また、図中の矢印は、スキルの習得、活用が一次予防、問題解決、QOL向上等に寄与し、予防等の成功体験がスキルや自尊心(特に有能感)の向上につながることを示しています。

2. 防止教育におけるライフスキルの有効性

薬物防止教育におけるライフスキルの有効性は、厳密で大規模な評価研究からも明らかにされています。例えば、中学生対象の大規模研究プログラムであるALERT(規範、抵抗スキル)、DARE(抵抗スキル)、LST(Life Skills Training: ライフスキル)、Lions Quest(ライフスキル)の評価がレビューされています(Flynn et al., "Independent evaluation of middle school-based drug prevention curricula", JAMA Pediatrics. 169, 2015)。有効性は、厳密な評価のためか従来の知見ほど顕著ではありませんでしたが、ライフスキルプログラムでは、特に大麻乱用防止に短期的・長期的な効果が認められました。また、ライフスキルは、喫煙防止のカリキュラム(Thomasら, "Effectiveness of school-based smoking prevention curricula: systematic review and meta-analysis", BMJ Open 5, 2015)、飲酒防止のプログラム(Foxcroft et al., "Universal alcohol misuse prevention programmes for children and adolescents: Cochrane systematic reviews", Perspectives in Public Health 132, 2012)の大規模評価研究においても有効性が確認されています。

図1 ライフスキルの内容構成



3. 背景となる理論

ライフスキルの背景となる理論は様々ありますが、よく取り上げられるのは、予防接種理論及び社会的学習理論です。

予防接種理論は、専門領域によっては社会的免疫理論、心理的免疫理論と呼ばれたりしますが、いずれにしても、ピアプレッシャーなどの開始要因の影響を理解させ、現実の課題より難度を下げた課題を取り上げ、事前に対処能力(社会的免疫、心理的免疫)を形成するものです。

社会的学習理論は、行動の習得のために、自己効力感(行動遂行に対する信念)や社会的モデルを提示し、モデルの行動を観察して学習するものです。薬物乱用防止教育では、対処の自己効力感を高めるために、誘われた場合の対処の学習(ロールプレイン

グ)により、適切な対処の仕方を観察したり、対処に肯定的なフィードバックを行ったりすることで対処行動の習得を図ります。

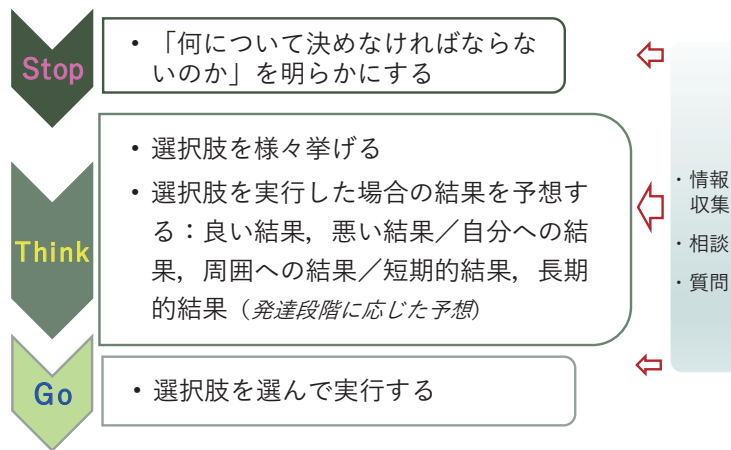
4. 対処法の指導内容

スキルの育成は一定のプロセスに沿って行われます。意思決定を例に説明します。まず、①意思決定スキルを使う場面や状況が日常にあること、同スキルが重要であることを確認する。②意思決定の行い方を、自分たちの意思決定経験を踏まえたり、指導者が行っている意思決定を観察したり(モデルの観察学習)しながら確認し理解する。③意思決定が必要な場面や状況を用いて、学習した意思決定の仕方を適用し使い方の理解を深める。④類似の意思決定場面等で活用し意思決定スキルを向上させる。⑤日常生活での意思決定場面に対して活用し、振り返りを行う、というものです。プロセス全体を扱うことが難しい場合、よく取り上げられるのは、上記③のスキルの行い方や使い方の習得です。以下では、習得の指導について説明します。

1) 意思決定スキルの場合

意思決定スキルを高めるには何を指導すべきでしょうか。結論的には「よく考えて決める」ですが、それでは内容は不明確です。ライフスキル教育では、国内外で共通理解されている意思決定の行い方であるステップを用います。具体的には、「Stop・Think・Go!」(中学生用)、あるいは「止まって・考えて・決める」(小学生用)です(いずれもJKYBライフスキル教育研究会(図2))。

図2 意思決定のステップ(JKYBライフスキル教育研究会、改変)



Stop：意思決定を行う前に、まず「何について決めるのか（課題）」を明確にする。

- 意思決定すべき課題は、時に、複数の課題が含まれていたり、課題が自分ではなく相手が決めるべきものであったり、他者と一緒に決めるべきものであったりして、課題が不明確な場合があります。したがって課題の明確化は必須です。

Think：選択肢を列挙し、各選択肢を実行した場合の結果を予想する。

- 意思決定課題に対してどのような選択肢があるか、幅広く挙げます。

- 各選択肢を実行した場合の結果について、良い結果と悪い結果の両方を挙げます。両方挙げるのは、感情や思い込み等により予想が肯定的あるいは否定的の一方に偏ることを防ぎ、複眼的に行うことを図るためです。

Go：特定の選択肢を選び、選択の理由を述べる。

- 選択肢の実行可能性、予想される結果、自身の価値観などから、選びたい選択肢を明確にし、選択の理由も紹介します。

なお、意思決定に有効である情報収集は、**Stop**・**Think**・**Go**のいずれにも関わります。例えば選択肢の列挙など、いずれの段階でも情報を活用できます。その際、情報入手は、検索だけでなく質問・相談等によっても可能であることに留意したいものです。

薬物乱用防止では、意思決定が必要な状況として、例えば薬物のリスクのある場面や状況、例えば、友達から夜の公園、自分は知らない知り合いの自宅、何かと噂があるクラブ等への誘い、SNSでの誘いなど挙げられます。

意思決定スキル育成のワークシートでは(図3)、ステップに沿って、左の枠内に意思決定すべき課題を、丸角の四角には選択肢を、吹き出しには予想される結果を記入します。

2) 誘いを断る学習の場合

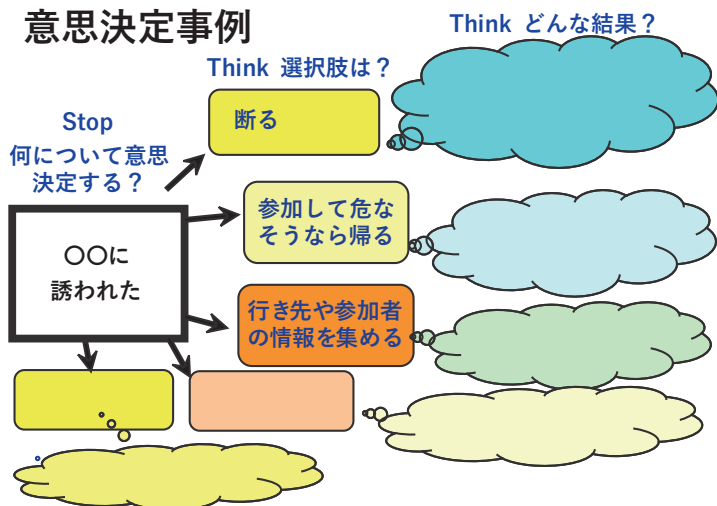
誘われた場合の最終的な対処法として、過去には「勇気を持って断ろう」が強調されました。しかしながら、断ることは大人でも難しい場合があり、具体的な対処法を示す必要があります。学習では、まず、下記のように様々な効果的な断り方があることを明

らかにします。

(1) 言葉による表現

- ・簡潔明瞭に拒否する。拒否を繰り返す…やらない、いらない
- ・拒否する理由を付け加える…部活を頑張りたい、止められなくなりそう
- ・強い不安、危険性等を感じていることを伝える…とても怖い！危ないと思う
- ・相手のことが心配であることを伝える…近ごろ辛そうだけど…
- ・法令や規範、家族、部活メンバーなどの外的要因を使う…禁止されているのでは？大会に出られないくなる、周りに迷惑をかける

図3 意思決定スキル育成のワークシート



(2)言葉によらない表現や行為(ボディランゲージ等)

- ・拒否の意志を非言語で伝える…「受け取らない」「いない」というポーズをする
- ・立ち去る。逃げる。無視する。周囲に助けを求め

さらに、有効性を高めるためには、小グループ単位で、考えた断り方を使ったロールプレイングにより対処の練習を行います。また、対処の仕方を観察して、良い点を中心に指摘して肯定的なフィードバックを行います。もちろん不十分な点もあるでしょうが、問題が無い完全な対処法の習得が目標ではありません。良い点が2、3個ありそれが一貫されていれば実際に断れると考えられます。肯定的フィードバックは対処の自信(自己効力感)を高めることにも有効です。

5. 参加型学習及び知識の活用

以上の指導内容からすれば、ライフスキル教育の指導方法はどのようなものか、イメージしづらいかもしれませんが。講義形式により、行い方を一方的に説明したり性急に課題に適用したりしても効果は期待できません。学習方法としては参加型学習が重視されますが、その特徴は次の通りです(WHOのライフスキル教育プログラム(1997))。

- ・子供達の経験、意見、知識を基礎とする…意思決定やコミュニケーションなどのスキルは、子供達自身が意識的、無意識的に活用しているものです。

このような経験、関わる意見や知識などを引き出

して活用しながら学習を進めます。

- ・可能性を追究し、選択肢を見つけるといって創造的な方向(または協同的な課題解決)を目指す…ライフスキルは課題対処に有効ですが、目標は唯一絶対の対処法(正解)を求めるのではなく、様々な適切な具体策(適切解)を明らかにすることです。

- ・学習と意思決定のプロセスに重要な快適さと安心を保証する…率直に意見交換できるように学習のルールや環境を設定して、それらを機能させます。

また、ライフスキルの習得、活用の場合でも、薬物乱用等の健康影響や開始要因の知識が活用できます。例えば、①知識を活用して断るセリフを作成したり、それをロールプレイングで使ってみたりします。②リスクのある状況での意思決定について、予想される結果(特に悪い結果)について習得した知識を用いて考えることなどが挙げられます。知識をコミュニケーションや意思決定に使うことは、知識を自分ごととして捉えたり、知識に対する理解を一層深めたりすることにつながります。

6. 日本の防止教育における育成、活用

ライフスキルに関わる指導は、日本の保健の授業や薬物乱用防止教室において認められます。保健の教科書にも内容や活動が示されています。(公財)日本学校保健会も、ライフスキルを重視した喫煙、飲酒、薬物乱用防止指導参考資料(小中高校編)の改訂を重ね、国内の小中高に配付したり、指導用のパワーポイントを作成し公開したりしています。したがっ

て、特定のライフスキルは日常的なものになってきました。例えば、薬物等を勧められた場合の効果的な断り方を意見交換したり、効果的で実行可能な様々な断り方を確認したり、場合によってはロールプレイングにより対処の練習を行ったり、他者の効果的な対処法を観察したり評価したりして対処能力を向上させたりすることができます。以上のような指導を今後も継続、充実させることが期待されます。

ただ、単なる活動に留まらないよう、考えることにも取り組んでいただくことを希望します。具体的には、子供達の経験や意見、知識などをさらに活用すること、意思決定や断る学習の場合に対処の仕方や選択肢が様々なことを確認すること、小グループでのロールプレイングの体験後の肯定的評価、振り返りなどを行うことです。活動することと考えることを往還させることで学習効果の一層の向上が期待できます。

ライフスキルは様々な課題に活用できます。コミュニケーションや意思決定などのスキルは、薬物乱用、喫煙、飲酒等以外の様々な課題(性、いじめ、ストレス等)にも応用できるものです。指導の最後にそれらの可能性についても言及してください。

文献リスト

- 1) WHO. WHO・ライフスキル教育プログラム. 川畑徹朗他監訳. 大修館書店. 1997
- 2) WHO. Skills for health: Skills-based health education including life skills. Information Series on School Health Document 9, 2003

身近にも悩んでいる人はきっといる。だからこそ、今、みんなで考えよう。

ライオンズクラブ国際協会 336-B地区 青少年育成・ライオンズクエスト委員長

藤原利幸



中高生の薬物過剰摂取の経験率増加 —もう遠い世界の話じゃない

私は岡山県・鳥取県をエリアとする地区で今年度ライオンズクラブ国際協会の青少年育成に関する委員会を担当しています。当地区内で薬物乱用防止教育認定講師養成講座を開催した際に、私からライオンズクラブとしてできる活動の紹介と私自身が地元で行っている学校での出前授業の様子や内容をお伝えしました。

現在の岡山県・鳥取県内の学校での薬物乱用防止教育の実施率や担当している団体など、教育現場での薬物乱用防止教育の実態について今年度は教育委員会の立場からお話をいただく機会を設けることができました。養成講座内のご担当の先生からほとんどの学校で外部講師や見識者の方々からの講座をすでに開講できている実態を紹介されました。地域のライオンズクラブへ依頼があり、出前授業を担当している学校も多くありました。

すでに継続して薬物乱用防止教育が行われているところへ、新規で無理にライオンズクラブが割り込む必要はないと私は考えています。しかも、ライオンズクラブとして単独で行う必要もなく、協力者が得られれば共に事業を行うこと、または事業の進め方や人員の交流まで行うことのできる貴重な機会と捉えてはいかがでしょうか、と提案をさせていただきました。

クスリに頼らない社会を —誰もができる身近な運動

一貫して私からお伝えしたことは、「薬物に頼る必要のない地域・社会を作ること」を目指すための活動、運動すべてが薬物乱

用防止教育であり、何をするにもこの目標を常に忘れず、大切にすることです。

教育現場で子ども達に出前授業で直接伝えることは有効な手段のひとつです。しかし養成講座では学校でのライオンズクラブ単独での出前授業を行うことを目標講習が行われたように感じていました。

私自身、単独で講座を行うこともあります。多くは警察の生活安全課の担当の方と二人での出前授業を行っています。警察の立場からは「違法薬物」を、地域の大人の立場からは「過剰摂取や薬物に頼らない支えあう社会を」という内容で授業を行うことで、子ども達の価値観や正しい認識の醸成へとより強く役立てるようにと構成と話し方を工夫しています。

運動、活動の形態は多種多様にある上、ライオンズクラブとしてはメンバー主体で行うもの、他の団体の活動に協力するものなどがあります。今現在行われている、薬物乱用防止に関する活動に参加し、見学し、体験すること、実体験として「知る」ことから始めてみませんか。知ることから、次に自分たちが出来ることを考えてみましょう。

地域の大人として、現状を知る

「ハイになるために過剰摂取を経験したことがある中高生、約60人に1人」この調査結果を伝えると、多くの方が驚きます。薬物の乱用と言えば、違法薬物の摂取というイメージから、現代社会では多くが市販薬など一般的に入手できるものを乱用することとなっています。

問題なのは、この現状を社会全体で認知し対応することが広く行っていないことです。子ども達に教育すべき大人の多くが現状を知らなければ、子ども達に薬物乱用防止を伝えることは出来ません。講じる対策や対応ものを射たものにはならないでしょう。

そして、以前の違法薬物からの距離を置くことでの対策が有効であった社会から、スマートフォンによる個人でのインターネットを介した情報交換が可能になり、手軽に情報と薬物が入手できる現状に環境が変化しました。

薬物の乱用を行わないという自発的な価値観の醸成が不可欠となるほどの無差別な情報の氾濫する環境です。自分のことは自分で守れるよう、情報リテラシーの育成が急がれます。

子ども達に伝える大切さとともに、一人でも多くの地域の大人にも伝えることが、薬物乱用防止運動にとっては重要であり、この運動が広く行われることを私は願っています。

クスリに頼ってしまう方も受け入れられる社会を目指そう

薬物の乱用をしてしまう人の多くが、悩みを相談できない、孤独を感じるといった孤立感を強く感じています。こころが辛く何かに頼りたい状況に近くの人が陥っているときに、話を聞いてあげるだけ、声をかけてあげるだけでもさみしさは和らぐはずですが。

周りに様子がおかしい人がいたら「おはよう、大丈夫？」の一言でいいから声をかけてあげてください。そして、近くの頼れる人に伝えてあげてください。お話、聞いてあげてみて。

統計の数値から考えると、身近な人に乱用をしてしまったことのある方がいても不思議ではありません。社会みんなで温かく支えあうことで薬物乱用を行わなくてもよくなる社会となるための運動も、今後の薬物乱用防止教育の一つの柱とすべき状況となっています。

組織はあるが、運動の成果はまだまだ

薬物乱用防止運動は行政の主導のもと、自治体単位で指導員を任命、養成されてはいますが、地域全体にまで運動が普及するまでの大きな効果のある運動にまでは広げることが出来ていない状況です。

少しずつの歩みかもしれませんが、ライオンズクラブの活動がこの運動の普及の一助となると信じ、講師の養成講座から地域の活動までの大きなうねりと、確実な一歩となることを願っています。

薬物乱用防止パレードや、イベント・学園祭でのブース出展、高校生と共同で地元地域へのアプローチを授業として計画・実行するなど、全国にはさまざまな運動、活動が行われています。それぞれの地域でできる運動、活動が活発に円滑に行えるよう、ぜひ参考にしてください。

私流の出前授業のポイント

- ①学校からのニーズを事前に確認する
- ②資料や啓発物を用意する
- ③講師が伝えるより「感じて、考えてもらう」
- ④記憶の強化に「アウトプット」
- ⑤向かうべきゴールを忘れずに
「薬物乱用防止を広く普及すること」

ここでは私が学校で薬物乱用防止教育のみならず、いろいろな授業、講義をするにあたって気を付けていること、ポイントなどを整理してお伝えします。

①学校からのニーズを事前に確認する

可能であれば実際の授業の前に、学校側から子ども達に伝えてほしい内容や趣旨を聞き取り、その内容に沿って構成を行います。打ち合わせ時にこちらの用意している内容を説明し、修正を加える場合もあります。

また、事前学習として何かしらの関連の授業を行っているかを確認して、重なる内容は簡潔に、または改めては内容に入れない配慮が必要になります。

このときにパソコンやDVDの接続、場所や参加想定人数の確認も行います。

②資料や啓発物を用意する

授業が終わっても、受講した本人だけでなく周りの方々にも少しでも波及してもらえるよう、そして家に帰っても目に触れて考える機会を持ってもらえるためのツールとして、警察や自治体などで作成、用意しているパンフレットや冊子などが入手できれば、配布できるよう手配します。

③講師が伝えるより「感じて、考えてもらう」

情報を伝えるだけでは、記憶として残るだけで実際の行動の変化にまで到達するには難しいです。対面で直接行う授業だからこそ、普段使いの言葉で語り掛けることや対話、体験を交える内容にします。受講する側にも考えてもらう、感じてもらう機会を少しでも多くする進行で構成します。

そして、1回の授業では伝える情報を少なく絞ることで、明確なメッセージとして伝えます。私は2つ、多くても3つくらいを心がけています。

④記憶の強化に「アウトプット」

薬物の乱用の実態を大人たちは知らないから、ご家族に伝えてね。そしてどんな反応があったか担任の先生を通じて教えてねとお願いすることにしています。

これは「大人は知らないんだ、自分が教えてあげよう」という子ども達の興味を引くこと、子ども達が自分で周りにアウトプットすることで、より記憶が強化され、価値観の創造にまでつなげるという意図があります。

先日の中学校の授業での振り返りで、大人は現状を知らないから家で教えてあげてねと言ったときの子ども達の目の輝きの変わり方に驚いたという、担当の先生からのコメントがありました。

子どもが大人に優位性を持つという経験としても、好奇心をくすぐっていて、私の狙い通りの反応でうれしく感じました。

⑤向かうべきゴールを忘れずに

「薬物乱用防止を広く普及すること」

子ども達からの地域への普及も大切な手法のひとつという観点からも、家族や大人に伝えてもらうことを進めていますが、学校側にも私からお願いをしていることがあります。可能であれば、時間の取れる先生方に数分でもいいから出前授業を聞いてもらうこと、啓発物を配って、先生方にも薬物乱用防止運動について知ってもらうことをお願いしています。

そして、次年度からは参観日の授業や、保護者対象の研修会での企画で薬物乱用防止教室開催の計画をお願いしています。

これらは、子ども達への出前授業を行うことがゴールではなく、薬物乱用防止運動の普及を目的としているからこそ考えられる視点であり、運動の本質を進めるには、とても重要なことであると考えています。

私の講座の内容紹介

ライオンズメンバー、あるいは大人向けとした内容と、実際に子ども達に向けた内容とを紹介いたします。

1. ライオンズメンバー（大人）向け

- ①ライオンズの組織としての強み

日ごろから地域のネットワークを活かし青少年の健全育成に寄与する。
他の団体や行政では難しい分野での実行力を発揮できる。
- ②激変する子ども達の環境

インターネット普及の弊害、現実世界の間人関係や社会性を培う機会が減り、子ども達の価値観を育てる重要性が高まる。
大人が学んでいないことを子ども達に教えなければならない場合もある。
- ③私たちは薬物の専門家ではない。だからこそ伝えられること

毎日の日常で子ども達と接し、関わることで、変化にもニーズにも気付ける。
- ④地域の運動・活動を見てみよう

すでに行われているものがあれば参加してみよう。その上で自分たちができることは何か、求められているものは何かを考えよう。他のクラブや団体が行う学校での講座、見学しませんか。
- ⑤何より、自分たち大人が「知る」こと

時代の変化に応じて、必要な方法で子ども達に薬物乱用防止の大切さを伝えよう。
伝える側の大人たちが現状を知り、社会全体で薬物乱用防止に取り組もう。

最後のまとめに、違法薬物の乱用は「ダメ。ゼッタイ。」だけど、周りの困っている人の声を聞いてあげられる薬物乱用防止のゲートキーパーが一人でも増えることを願っていることを伝える。

2. 学校向け

前半では主に違法薬物について、後半では過剰摂取と社会全体で薬物乱用防止に取り組む必要性を伝えます。

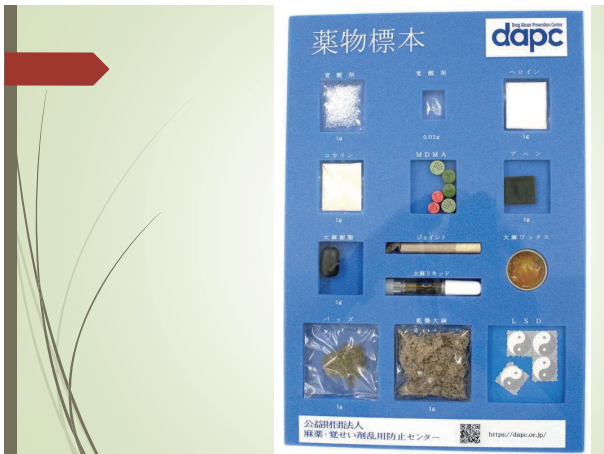
- ①「薬物を乱用する」ってどういうこと？
違法薬物の使用とともに用法、用量を守らない摂取も該当すると説明

“薬物を乱用する”ってどういうこと？

- ・使ってはいけないものを身体に入れる
- ・薬を飲む人、量、飲み方を守らないで飲む
- ・飲める薬を必要ではないときに飲む

- ②薬物標本を見てもらう

サプリメントや調味料、電子タバコといった身近にあるものに似せて、一見わからないように作ることで、身近に迫ってきていることを感じてもらう。



違法薬物ってどんなもの？

- ・生活の中に見た目が似ているものがある。
- ・かわいい。
- ・ドラッグストアにありそう。
- ・見た目では区別がつかないそう。

巧妙に近寄ってきています！

③クスリを勧められたらどうする？

事例を紹介、または実際に模擬体験をしてもらい、断るときの気持ちや注意点を確認する。

**あなたならどうする？
(ワークショップ)**

- ・友達に「魅力的になれる」と勧められクスリを渡された。
- ・好きな人から「楽しくなるクスリだから一緒に飲もう」と言われた。
- ・怖い先輩に「飲まないと言わない」とクスリを飲むことを強要された。

④中毒・依存の恐ろしさ

脳に直接作用することで、自分の意思だけでは依存から抜け出すことが困難なこと、だからこそ復帰は大変だし、周りの助けが大切だと伝える。

中毒と依存の恐ろしさ

一瞬の「良さ」が忘れられなくなる

- ➡ 身体の回復までが経験のない倦怠感
- ➡ 快感を求めて繰り返し摂取
- ➡ 継続の摂取で精神と身体はボロボロに

自分の力で依存から抜け出すのは困難

⑤薬物は身近に迫っている

大麻の入手可能と答えた生徒の割合、約15人にひとりというデータを紹介し、だからこそ自分が「使わない」と判断できることが大切だと伝える。

⑥市販薬乱用の経験率

約60人にひとりが市販薬の過剰摂取を経験している現状と、過剰摂取をしてしまう人の状況、環境を考えてみる。自分では解決できない悩みや孤独を抱えた状況が少なくない。孤独を感じさせない社会が過剰摂取を止めるカギとなる。

あなたならどうする？

- ・風邪の症状がひどいので、決められた量の2倍を服薬した。
- ・普段から処方され飲んでいる薬との組合せを確認しないでドラッグストアで自分で選んだ薬と一緒に飲んだ。
- ・短時間に連続して服薬した。

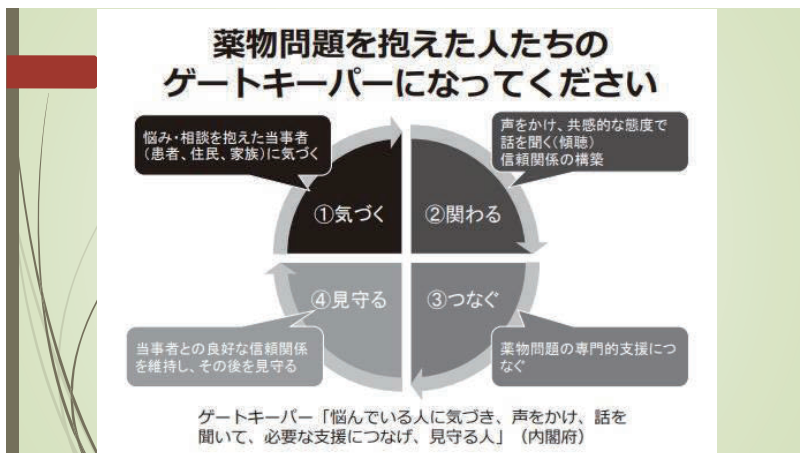
⑦薬の販売元、製造元の運動紹介

ドラッグストアでは風邪薬などの販売時に服用する患者の状況を確認。

製造元には薬の箱の裏にQRコードで「お薬の使い方でお困りの方へ」として寄り添うメッセージと相談先の案内のHPへと誘導する工夫を実施。

⑧声掛けのお願い

薬物問題を抱えた人たちのゲートキーパーとして、まずは周りのお友達の様子がおかしいと思ったら、声をかけてほしいこと、近くの頼れる大人へも教えてほしいことを伝える。社会の大人たちが現在の状況を知らないので、子ども達から地域の大人たちへ発信してもらおうことをお願いする。



最後に

全国の一人でも多くの方々と協力し、より明るい豊かな社会への実現に向けて、薬物の乱用防止をツールとして貢献できればという思いで日々活動しています。地域に寄り添い、人に寄り添えるライオンズクラブの活動を続けていきたいです。ご高覧ありがとうございました。

太田胃散が
太田胃散Sになりました



太田胃散
ありがとう
いろいろです



太田胃散く分包>S 太田胃散S

飲みすぎ 胸やけ 胃の不快感に

第2類医薬品



介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

八王子市暁町



●シルバーレジッド八王子

直下型地震にも対応
安心の免震構造
●シルバーレジッド日野東館



多摩モノレール
甲州街道駅徒歩1分!!
●シルバーレジッド日野



八王子市宮下町

●シルバーレジッド八王子西



八王子に隣接
救急指定右田病院



日野・日野東館に隣接
康明会
ホームケアクリニック

在宅福祉部
●居宅介護支援事業所
シルバーレジッドいちようの里
●訪問介護事業所
シルバーレジッドいちようの杜
●セカンドライフ応援倶楽部
シルバーレジッドいちようの実

「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。
SV シルバーレジッド

パンフレットのご請求は
0120-19-0432

ホームページ **シルバーレジッド** 検索

株式会社シルバーレジッド 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

2025年度「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金状況

(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター

都道府県	実行委員会		ライオンズクラブ		ロータリークラブ		募金額合計		
	件数	募金額	件数	募金額	件数	募金額	件数	募金額	
1	北海道	94	348,958	3	33,830	0	0	97	382,788
2	青森	14	188,251	5	97,060	0	0	19	285,311
3	岩手	39	102,891	0	0	0	0	39	102,891
4	宮城	31	206,156	1	20,000	1	29,200	33	255,356
5	秋田	100	258,222	3	61,586	0	0	103	319,808
6	山形	33	406,023	3	19,136	0	0	36	425,159
7	福島	136	1,817,169	0	0	0	0	136	1,817,169
8	茨城	230	747,449	2	54,013	3	83,290	235	884,752
9	栃木	3	7,390	0	0	0	0	3	7,390
10	群馬	8	18,984	0	0	0	0	8	18,984
11	埼玉	240	1,907,308	3	635,000	0	0	243	2,542,308
12	千葉	42	131,811	2	31,976	6	69,136	50	232,923
13	東京	209	1,585,671	0	0	0	0	209	1,585,671
14	神奈川	63	895,911	0	0	5	83,000	68	978,911
15	新潟	85	144,915	5	80,302	0	0	90	225,217
16	富山	50	283,683	0	0	0	0	50	283,683
17	石川	11	194,849	8	167,252	1	52,221	20	414,322
18	福井	1	261,670	2	10,000	0	0	3	271,670
19	山梨	7	100,342	0	0	0	0	7	100,342
20	長野	213	761,517	1	3,701	38	623,621	252	1,388,839
21	岐阜	28	173,380	0	0	0	0	28	173,380
22	静岡	29	256,696	18	202,042	0	0	47	458,738
23	愛知	34	160,887	0	0	0	0	34	160,887
24	三重	101	160,894	5	70,295	5	94,607	111	325,796
25	滋賀	6	25,321	3	77,422	1	17,411	10	120,154
26	京都	38	211,929	0	0	0	0	38	211,929
27	大阪	36	418,277	43	724,387	6	78,438	85	1,221,102
28	兵庫	18	193,215	0	0	0	0	18	193,215
29	奈良	11	76,059	4	236,049	0	0	15	312,108
30	和歌山	22	120,080	16	194,031	8	190,028	46	504,139
31	鳥取	34	70,224	0	0	0	0	34	70,224
32	島根	44	153,869	3	60,977	0	0	47	214,846
33	岡山	43	199,913	14	95,670	0	0	57	295,583
34	広島	40	380,040	1	627,896	1	93,279	42	1,101,215
35	山口	57	1,115,603	0	0	1	7,000	58	1,122,603
36	徳島	11	543,573	0	0	0	0	11	543,573
37	香川	4	4,006	1	8,000	0	0	5	12,006
38	愛媛	5	1,779,877	0	0	0	0	5	1,779,877
39	高知	30	262,650	0	0	0	0	30	262,650
40	福岡	37	251,054	17	207,211	0	0	54	458,265
41	佐賀	38	190,652	2	27,290	3	20,488	43	238,430
42	長崎	33	225,820	0	0	0	0	33	225,820
43	熊本	17	124,530	0	0	0	0	17	124,530
44	大分	35	1,034,390	0	0	0	0	35	1,034,390
45	宮崎	43	163,888	0	0	0	0	43	163,888
46	鹿児島	37	394,007	0	0	0	0	37	394,007
47	沖縄	169	682,359	1	10,000	1	3,600	171	695,959
		2,609	19,742,363	166	3,755,126	80	1,445,319	2,855	24,942,808

	振込件数	募金額
実行委員会	2,609	19,742,363
ライオンズ	166	3,755,126
ロータリー	80	1,445,319
官公庁／団体	41	472,391
企業／その他	99	970,665
総計	2,995	26,385,864

2025年度「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金は12月16日で締め切りました。12月17日からの分は、2026年度の募金に計上されます。

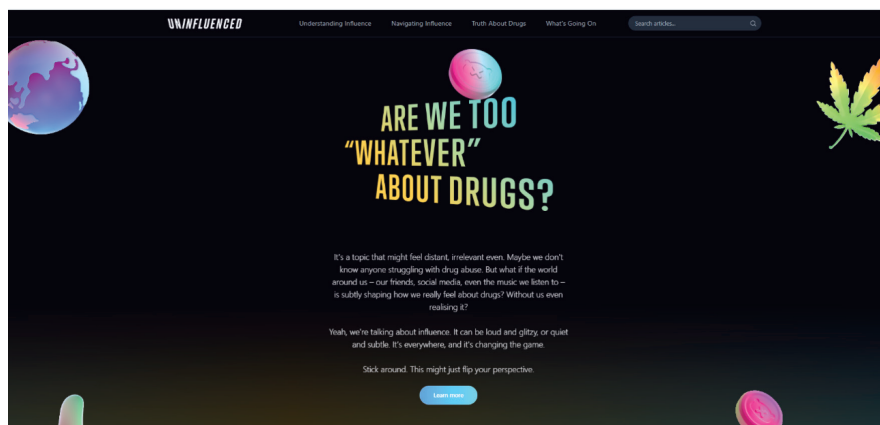
尚、ライオンズクラブ、ロータリークラブの募金が実行委員会に含まれている場合もあります。

シンガポール政府による若者をターゲットとした 薬物乱用防止キャンペーン 「Uninfluenced(アンインフルエンスト)」の紹介

事業部長 菅家奈央

シンガポールにおいて、若者への薬物乱用防止啓発として、ゲーム要素を取り入れた新たな手法を用いたキャンペーンが展開されています。こうした従来にはないアプローチを取り入れた取り組みについて、このたび当財団が担当者から話を聞く機会を得ましたので、ここでご紹介します。

本キャンペーンは、「Uninfluenced(アンインフルエンスト)」(直訳で「影響されない」)と名付けられており、「(薬物使用を誘う)仲間からの圧力に対する強さ」や、「薬物を宣伝する商業的なメッセージに惑わされない姿勢」、さらには「誤った情報に流されない力」を表しています。また若者が、友人やSNSなど周りにある様々な影響について考え、薬物についての認識がそういった影響を受けてきたことに気づき、十分な情報に基づいて自らの力で正しい判断をできるようにすることが目的とされています。



薬物乱用防止啓発キャンペーン「アンインフルエンスト」のウェブサイト (<https://uninfluenced.sg/>)

本キャンペーン「アンインフルエンスト」のウェブサイトのトップページは、一見すると薬物乱用防止の啓発を目的としたウェブサイトとは分りにくい構成となっています。このような「スタイリッシュな」デザイン、そして「私たちは薬物に対して“どうでもいい”と思わずでないでしょうか？ (ARE WE TOO “WHATEVER” ABOUT DRUGS?)」という問いかけによって、若者の薬物への無関心へ揺さぶりをかける工夫がほどこされています。

シンガポールの薬物に関する若者対象の意識調査

キャンペーン担当者の話によると、シンガポールの多くの若者は、薬物の法的な規制に賛成している一方で、薬物乱用に関しては友人などから影響を強く受ける傾向があるとのこと。たとえば、2025年2月にシンガポールの中央麻薬取締局(CNB)が若者500人を対象に実施した調査では、「薬物が使用されているパーティーなどの場で、個人的に圧力を感じ、試してしまう可能性がある」と62%もの若者が回答しています。また回答者のうち30%が「一部の薬物は安全に使用できる」と薬物に関して誤った情報を持っており、さらに「薬物の販売方法が巧妙化・革新化することで、若者にとって薬物がより魅力的に受け取られる」と63%が答えています。このような調査結果は、巧妙な販売やマーケティングによって、若者の薬物に対する考え方が大きな影響を受ける可能性も示唆しています。

キャンペーン先行企画の脱出ゲーム「ラースプラ島への旅で何が起こったのか？」

「アンインフルエンスト」キャンペーンは3年間予定されていますが、先行して2025年2月末から3月にかけての約1週間、期間限定にて没入型エスケープルーム企画「The Trip: What Happened in Larspura?」(ラースプラ島への旅で何が起こったのか?)が展開されました。これは、「ラースプラ島」という架空のリゾート地の島で楽しむ若者に何が起こったのか、制限時間内に謎を解いて、3つの空間(ルーム)からの脱出を試みる「脱出ゲーム」です。

「仲間」「文化」「社会」という、薬物に対する考え方に関して影響を受ける要素ごとに、三つのエスケープルームがあります。各ルームでは、若手俳優による体験型の演出、ゲーム性のあるパズル、そして若者のファシリテーターによる振り返り・対話の時間が組み合わされています。脱出ゲームの謎解きの過程を通して、参加した若者が薬物の有害性を体験的に学び、

対話するように意図されています。

エスケープルーム1「ベンの脳内」

参加者はベンの“脳内”へ入り込み、「ラースプラ島」での旅行中に何が起きたのか、その断片をつなぎ合わせながら謎を解き、檻の中にいる(俳優が演じる)ベンを解放することを目指します。人生における重要な出来事が、さまざまな物事の捉え方、特に薬物乱用に対する見方にどのような影響を与えてきたかについて、参加者自身の気づきを高めることを目的としています。

エスケープルーム2「誕生日パーティー」

参加者は主人公の誕生日パーティーに招かれます。俳優との対話を通じて、“ラースプラ島への旅”の真相を解き明かしていきます。

その過程で、仲間からの影響の良い面と悪い面を学ぶとともに、立場の弱い状況に置かれている人を助けるために声を上げることの大切さを理解します。

エスケープルーム3「ラースプラ作戦」

参加者は“潜入捜査官”としてラースプラ島に潜入し、情報を収集しながら、新たな違法薬物がどのように売り出されているのか、その実態を暴いていきます。

ゲームの中では、“大麻産業”のマーケティング手法にならない、薬物取引がどのように需要と供給を作り出していくのかを示す手がかりを追っていきます。さらに、情報源をきちんと検証しているかどうか、あるいは自分の考えや意見が日々接する情報によって影響を受けていないかを考える視点も学びます。

脱出ゲームの広報展開

この先行企画の脱出ゲームの事前には、大学等の教育機関の若者を対象とした告知や若者の往来が多い場所での広告掲出が実施されました。事前告知や開催現地では、薬物乱用防止キャンペーンの一環であることを参加者に分からないように、ロゴや主催団体名などを意図的に非公開にし、若者や一般市民の好奇心を喚起し、より高い訴求力を持たせる工夫がされたとのことでした。

その結果、この先行企画の脱出ゲームは予想以上の反響を得て、ウェブサイトでの予約受付開始から1週間足らずですべてのゲーム枠が埋まり、さらに追加で用意した枠も、わずか3日間で予約満席となりました。また、様々なSNSのインフルエンサーが招かれ、エスケープルームを体験してもらうとともに、その感想や個人的な考えが発信されました。これにより、若者や保護者層の関心と話題性が高まり、イベント期間後にもInstagramやTikTokなどのソーシャルメディア上でも議論や対話が多数生まれる結果となりました。

先行企画の反響と当局見解

脱出ゲーム体験後のアンケート回答者のうち、5人に4人が、薬物乱用に関する様々な問題を理解するうえで今回の体験が効果的だったと答えました。キャンペーン担当者からは、今回の先行企画から、若者の薬物についての判断や行動に関して、様々な種類のインフルエンサー(友人、SNSなど)に影響されていること、また友人の存在が重要な役割を果たすことが確認されたという報告を受けています。

シンガポール政府中央麻薬取締局(CNB)のコミュニケーション部長オードリー・アン氏は次のように述べています。

「『アンインフルエンスト』は、薬物使用を正当化する情報など、誤解を招く情報があふれる世界を生きる新世代の若者に向けて、内省を促すことを目的に設計されました。私たちは、今の若者世代には批判的に考える力があると信じています。本キャンペーンは、その認知能力を発揮し、情報を的確に読み取り、自分自身や同世代にとって本当に意味のある判断を下すよう呼びかけるものです。

今後3年間にわたり、CNBは若者および主要な関係者が、より効果的な対話を行えるよう力を育んでいきたいと考えています。それは、人々が薬物乱用へ傾くことを未然に防ぐ力を持つ対話であり、また、薬物の影響を受けやすい立場にある人々を支える対話でもあります。」



エスケープルーム1「ベンの脳内」



エスケープルーム2「誕生日パーティー」



エスケープルーム3「ラースプラ作戦」

「第六次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップの概要

令和7年7月29日
薬物乱用対策推進会議

〔令和6年の薬物情勢〕

- 薬物事犯の検挙人員(医薬品医療機器等法違反によるものを除く。)は14,040人(+225人/+1.63%)と前年より増加した。このうち、覚醒剤事犯の検挙人員は6,306人(+233人/+3.84%)と増加しているものの、6年連続で1万人を下回っている。また、大麻事犯の検挙人員については6,342人(-361人/-5.39%)と減少したが、昨年に続き、覚醒剤事犯の検挙人員を上回った。
- 覚醒剤の押収量は1,473.3kg(-128.3kg/-8.01%)と減少した。大麻の押収量のうち、大麻製品(乾燥大麻、大麻たばこ)の押収量は452.3kg(-397.7kg/-46.8%)と前年より減少した。一方、THC類濃縮物の押収量は147.7kg(+91.2kg/+161.4%)と前年より増加した。
また、コカインの押収量は301.4kg(+245.2kg/+436.3%)と前年より大幅に増加したほか、MDMA等錠剤型合成麻薬の押収量も232,509錠(+62,766錠/+37.0%)と前年より増加した。
- 薬物密輸入事犯の検挙件数は409件(-63件/-13.4%)、検挙人員は475人(-88人/-15.6%)と検挙件数、人員ともに減少した。
- 30歳未満の検挙人員は、覚醒剤事犯が1,019人(+72人/+7.60%)と増加した。また、大麻事犯は4,600人(-287人/-5.87%)と過去最高であった令和5年よりは減少したものの、高い割合を占めた。
- 覚醒剤事犯の再犯者率は66.4% (+0.4%)と前年より増加した。
- 大麻事犯の初犯者率は72.9% (-3.5%)と減少したが、依然として初犯者が占める割合が高い。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は745人(+301人/+67.8%)と前年より増加した。

目標1 青少年を中心とした広報・啓発を通じた国民全体の規範意識の向上による薬物乱用未然防止

- 薬物の専門知識を有する各関係機関の職員等が連携し、学校等において薬物乱用防止教室を実施したほか、各種啓発資料の作成・配布を行った。〔文科・警察・財務・法務・厚労〕
- 大麻の乱用拡大が進む若年層に対し、薬物乱用の危険性・有害性に関する正しい知識を普及するため、大学等や民間企業における薬物乱用防止講習を実施するとともに、有職・無職少年向けや、高等学校卒業予定者向け等の啓発読本を作成・配布したほか、薬物乱用防止指導員や学校薬剤師等の講師による学校等における薬物乱用防止教室を実施した。〔警察・文科・厚労〕
- 関係省庁のウェブサイトやSNSへ広報啓発資料・動画を掲載するとともに、広報媒体・手法の工夫として、青少年の目に触れやすい広報媒体を活用し、薬物の危険性・有害性等を強く印象付ける画像等を用いた。また、若年層のうち、インターネット上の行動によって、大麻への関心が高いと思われる者をターゲットにするなどの広報啓発活動を実施した。〔警察・文科・厚労〕
- 家庭及び社会における広報啓発として、各種運動、薬物乱用防止に関する講演、街頭キャンペーン等、地域住民を対象とした広報啓発活動を実施するとともに、ウェブサイトやリーフレット等の啓発資料に相談窓口を掲載し、広く周知した。〔内閣府・警察・こども・消費者・法務・財務・文科・厚労〕
- 海外渡航者が安易に大麻に手を出したり、「運び屋」として利用されたりすることのないよう、法規制や有害性を訴えるポスター等の活用を図ったほか、ウェブサイトやSNS等で注意喚起を実施した。〔警察・外務・財務・厚労〕

目標2 薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再乱用防止

- 「依存症対策地域支援事業」の実施により、依存症専門医療機関及び依存症治療拠点機関の選定を推進するとともに、「依存症対策全国拠点機関設置運営事業」により医療従事者の依存症治療に対する専門性の向上を目的とした研修及び地域における相談・治療等の指導者となる人材の養成を実施した。〔厚労〕
- 薬物事犯で検挙された者のうち、保護観察処分が付かない執行猶予判決を受けた者等、相談の機会が必要と認められる薬物乱用者に対し、再乱用防止支援の実施を強化するとともに、パンフレットを配布して全国の子供精神保健福祉センターや家族会等を紹介するなど相談窓口の周知を徹底した。〔法務・厚労・警察〕
- 薬物事犯者の処遇プログラムを担当する職員への研修等の実施により、職員の専門性向上を図るとともに、「薬物事犯者の再犯防止対策の在り方に関する検討会実務担当者会議」で議論するなどして、新たな取組の試行を含めた検討を実施するなど、関係機関が連携し、薬物処遇と社会復帰支援に関する対策を実施した。〔法務・厚労〕
- 家族会を開催する民間支援団体等を支援するとともに、保健所及び精神保健福祉センターにおいて民間支援団体と連携して家族教室等を実施した。さらに、再非行に走る可能性のある少年やその保護者に対し、積極的に指導・助言等の支援活動を行った。〔法務・厚労・警察〕

目標3 国内外の薬物密売組織の壊滅、大麻をはじめとする薬物の乱用者に対する取締りの徹底及び多様化する乱用薬物等に対する迅速な対応による薬物の流通阻止

- 各種捜査手法の効果的な活用に努め、薬物密売組織の中核に位置する者に焦点を当てた取締りを推進し、令和6年中、首領・幹部を含む暴力団構成員等2,385人を検挙した。〔警察・法務・財務・厚労・海保〕
- 令和6年中、麻薬特例法第11条等に基づく薬物犯罪収益等の没収規定を50人に、同法第13条に基づく薬物犯罪収益等の追徴規定を166人にそれぞれ適用し、没収・追徴額の合計は約4億8,096万円に上った。〔法務〕
- 危険ドラッグ等取扱業者に対する取締りを推進し、危険ドラッグの把握に努め、32物質を新たに指定薬物に指定した。また、令和6年中、すでに指定薬物として規制された物質のうち、麻薬と同種の乱用のおそれのある8物質を麻薬に指定し、規制を強化した。〔厚労〕
- ダークウェブ、暗号資産を利用した密輸・密売事犯に適切に対応するため、関係機関との情報共有体制や、サイバー捜査に特化した部門の強化や体制整備を推進し、サイバー空間を利用した薬物密輸・密売事犯に対し捜査を展開した。〔警察・厚労・海保〕
- 近年の若年層を中心とした大麻事犯の増加等の国内における薬物情勢、諸外国における大麻から製造された医薬品の医療用途への活用・大麻草由来成分の活用等の国際的な動向等を踏まえ、令和5年12月に成立した大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律(以下「改正法」という。)の円滑な施行に向けて関係省令を整備し、令和6年12月より、大麻施用罪に係る規定等を適用できることとした。〔厚労〕
- 迅速な鑑定体制を構築し、未規制物質や新たな形態の規制薬物の鑑定に対応するため、資機材の整備を行い、薬物分析手法に係る研究・開発を推進した。また、改正法施行後の運用に係る鑑定分析方法等について、関係省庁の実務担当者を集めた会議等を通じて関係省庁間で情報を共有した。〔警察・財務・厚労・海保〕

目標4 水際対策の徹底による薬物の密輸入阻止

- 関係機関間において緊密な連携を取り、捜査・調査手法を共有した結果、統一的な戦略の下に効果的、効率的な取締りが実施され、令和6年中、水際において、約2,579kgの不正薬物の密輸入を阻止したほか、5年ぶりに洋上瀬取り事案を摘発した。〔警察・財務・厚労・海保〕
- 麻薬等の原料物質に係る輸出入の動向及び使用実態を把握するため、国連麻薬統制委員会(INCB)と情報交換を行うとともに、関係機関と連携し、原料物質取扱業者等に対し、管理、流通状況等に係る立入検査等を実施した。〔厚労・経産・海保〕
- 訪日外国人の規制薬物持込み防止のため、英語版をはじめとした複数言語版の啓発資料を関係省庁のウェブサイト等に掲載して情報発信するとともに、民間団体等に対して広報協力の働きかけを行うとともに、国際会議や在外関係機関を通じて広報・啓発を実施した。〔財務・警察・厚労・法務・外務・海保〕

目標5 国際社会の一員としての国際連携・協力を通じた薬物乱用防止

- 国際捜査共助等を活用し、国際捜査協力を推進するとともに、国際的な共同オペレーションを進めた結果、薬物密輸入事案等を摘発した。〔法務・警察・財務・厚労・海保・外務〕
- 第67会期国連麻薬委員会(CND)会期間・再開会期会合、第68会期CND通常会合、国連薬物・犯罪事務所(UNODC)開催のSMART犯罪科学プログラムに関する活動及び世界税関機構(WCO)のアジア・大洋州地域情報連絡事務所(RILO A/P)が実施する取締りプロジェクト等に参加し、参加各国における薬物の乱用状況、乱用対策等に関する情報を入手するとともに、国際機関や諸外国関係者等と積極的な意見交換を行い、我が国の立場や取組について情報共有を図った。〔警察・外務・財務・厚労・海保〕

【当面の主な課題】

令和6年の我が国の薬物情勢は、大麻事犯の検挙人員が6,342人となり前年に比べ減少したものの、依然として、覚醒剤事犯の検挙人員を上回る結果となった。特に、大麻事犯の検挙人員の7割以上が30歳未満の若年層であり、依然として大麻の乱用拡大に歯止めがかからない状況にあることから、我が国は引き続き「若年者大麻乱用期」の渦中にあると言える状況にある。令和6年12月及び令和7年3月に改正法の施行を迎えたところであるが、大麻の乱用拡大を阻止すべく、引き続き関係省庁と連携の上、予防啓発や取締りの強化などの対策を徹底していく必要がある。

また、地域社会の中において、薬物依存症者及びその家族が関係機関の支援を受けられるよう環境整備を推進していくことが求められており、薬物依存症治療を実施する医療機関の整備を図るほか、関係機関が連携して、薬物依存症者への各施策を一体的に実施していくこととする。

危険ドラッグ事犯の検挙人員については急激な増加となり、危険ドラッグを摂取したことによる健康被害も報告されている。これは、インターネットや店舗を介し、大麻の有害成分であるTHC類に類似した化合物が蔓延した状態が未だ継続していることが要因の一つといえる。このため、危険ドラッグ販売店舗への立入検査、検査命令及び販売等停止命令を実施するなど関係機関と連携した取締りの強化を行っているほか、広域的に規制する必要があると認められた製品については、医薬品医療機器等法に基づき、全国的に販売等を禁止する旨を告示している。引き続き、これらの取締りを徹底していくとともに、包括指定を含めた指定薬物への迅速な指定を行い、乱用断絶に向けた取組を行っている。

また、密輸入事犯の検挙人員は前年より減少したものの、水際での不正薬物全体の押収量は約2,579kgと、初めて2年連続で2トンを超えたことに加え、大麻を含む麻薬の摘発数が過去最高を記録するなど、極めて深刻な状況となっている。我が国で乱用されている規制薬物の大半は海外から密輸入されたものと考えられており、密輸入形態別に見ると、航空旅客、国際郵便物、航空貨物、海上貨物、船員等の全てにおいて、摘発件数が令和5年の摘発件数以上となった。このため、関係機関が連携して、民間団体・事業者に対する広報協力の働きかけを行うとともに、引き続き、海外渡航者・訪日外国人への規制薬物持込み防止に関する広報・啓発活動を実施する必要がある。

さらに、近年、欧米諸国においてフェンタニルやニタゼン系物質などの合成オピオイド等の乱用が深刻な社会問題となっていることに関し、国を跨いだ新たな枠組みの創設が検討されてきた。こうした新たな枠組みの構築、国際機関等との情報共有や国際会議等への参加による情報収集を通じ、より一層国際機関や各国機関との連携を強化していくこととする。

[参考データ：各年1月1日から12月31日まで]

●全薬物事犯検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
検挙人員	13,887	13,841	14,019	14,322	13,860	14,567	14,408	12,621	13,815	14,040

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 覚醒剤、大麻、麻薬・向精神薬、あへん事犯の検挙人員の合計。

●覚醒剤事犯検挙件数、検挙人員

(件、人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
検挙件数	16,168	15,374	14,496	14,289	12,155	12,292	11,809	9,012	8,603	9,202
検挙人員	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073	6,306

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●覚醒剤以外の薬物事犯検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
大麻	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570	5,260	5,783	5,546	6,703	6,342
麻薬・向精神薬	516	505	505	528	558	638	639	783	1,033	1,382
コカイン	103	153	185	217	213	204	169	253	391	629
ヘロイン	3	0	9	10	7	7	0	0	3	1
MDMA等錠剤型合成麻薬	29	37	41	57	90	219	247	265	250	242
あへん	4	7	12	2	2	15	16	3	6	10

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 令和6年12月12日以降、大麻は麻薬及び向精神薬取締法における麻薬として規制されることとなったが、同月12日から31日までに麻薬及び向精神薬取締法違反として検挙した人員については「大麻」の項目へ計上し、「麻薬・向精神薬」の項目から除外している。

●薬物押収量

(kg、MDMA等錠剤型合成麻薬は錠)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
覚醒剤	431.8	1,521.4	1,136.6	1,206.7	2,649.7	824.4	998.7	475.3	1,601.6	1,473.3
大麻製品(乾燥大麻、大麻たばこ)	104.6	159.7	270.5	337.3	430.1	299.1	377.2	330.7	850.0	452.3
THC類濃縮物								90.0	56.5	147.7
大麻樹脂	3.9	1.0	21.9	3.1	14.8	3.6	2.9	5.6	1.0	11.8
コカイン	18.6	113.3	11.6	157.4	639.9	821.7	15.1	42.8	56.2	301.4
ヘロイン	2.0	0.0	70.3	0.0	16.7	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
あへん	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	-	0.0	2.5
MDMA等錠剤型合成麻薬	1,074	5,122	3,244	12,307	73,915	106,308	80,623	95,614	169,743	232,509

出典：警察庁、財務省、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

(注) 「0.0」とあるのは、押収量が微量であったことを表す。

●少年の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
総数	119	136	93	98	97	99	115	103	107	115
うち中学生	1	7	0	3	3	0	1	1	3	5
うち高校生	14	18	8	13	10	11	13	12	8	16

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年及び20歳代の覚醒剤事犯の検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
総数	1,556	1,437	1,334	1,285	1,151	1,114	1,156	918	947	1,019
うち少年	119	136	93	98	97	99	115	103	107	115
うち20歳代	1,437	1,301	1,241	1,187	1,054	1,015	1,041	815	840	904

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
総数	144	211	301	434	615	899	1,000	917	1,246	1,142
うち中学生	3	2	2	7	6	8	8	11	21	26
うち高校生	24	32	53	74	110	159	189	150	230	205

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●少年及び20歳代の大麻事犯の検挙人員

(人)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
総数	1,049	1,237	1,519	2,007	2,622	3,511	3,934	3,840	4,887	4,600
うち少年	144	211	301	434	615	899	1,000	917	1,246	1,142
うち20歳代	905	1,026	1,218	1,573	2,007	2,612	2,934	2,923	3,641	3,458

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●大麻事犯における初犯者率

(人、%)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
検挙人員	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570	5,260	5,783	5,546	6,703	6,342
うち初犯者数									5,119	4,621
比率 (%)									76.4	72.9

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●薬物乱用防止教室の開催状況

(校、%)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	開催校数	15,676	15,886	15,747	15,467			13,373	14,220	14,783
	開催率	76.2	77.3	79.1	78.6			70.7	75.5	79.3
中学校	開催校数	9,312	9,541	9,328	9,190			8,056	8,418	8,731
	開催率	88.9	91.0	91.0	90.6			82.0	86.1	90.0
義務教育学校	開催校数		25	85	151			228	290	357
	開催率		100.0	83.3	91.0			76.5	81.2	87.1
高等学校	開催校数	3,990	4,104	4,092	4,004			3,570	3,793	4,012
	開催率	84.6	86.3	86.4	85.8			78.0	82.6	87.1
中等教育学校	開催校数	39	40	68	78			64	68	84
	開催率	78.0	76.9	66.7	76.5			62.1	63.0	78.5

出典：文部科学省調べ

(注1) 各年4月1日から翌3月31日まで

(注2) 義務教育学校はH28より創設

(注3) H31・R1、R2、R6は、未実施

●覚醒剤事犯検挙人員に占める暴力団関係者数

(人、%)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
検挙人員	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073	6,306
うち暴力団関係者	5,758	5,114	4,796	4,687	3,777	3,592	3,058	2,199	1,970	1,760
構成比 (%)	51.4	48.2	46.6	46.7	43.3	41.5	38.3	35.0	32.4	27.9

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●覚醒剤事犯における再犯者率

(人、%)

	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
検挙人員	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730	8,654	7,970	6,289	6,073	6,306
うち再犯者数	7,237	6,879	6,740	6,613	5,765	5,937	5,338	4,258	4,008	4,185
比率 (%)	64.6	64.9	65.5	65.9	66.0	68.6	66.9	67.7	66.0	66.4

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

●出所受刑者の2年以内再入率（覚醒剤取締法違反）

(人、%)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4
出所受刑者人員	6,788	6,456	6,184	6,144	6,134	5,982	5,367	5,008	4,531	4,399
うち2年以内再入者数	1,324	1,338	1,187	1,149	1,061	957	846	776	581	466
比率 (%)	19.5	20.7	19.2	18.7	17.3	16.0	15.8	15.5	12.8	10.6

出典：法務省調べ

●薬物密輸入事犯検挙件数・検挙人員

(件、人)

		H27	H28	H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
覚醒剤	件数	78	85	130	137	293	87	62	146	218	113
	人員	102	108	159	172	357	143	95	196	297	155
大麻	件数	67	49	89	107	123	105	120	78	90	143
	人員	64	52	77	94	122	103	145	92	97	155
麻薬・ 向精神薬	件数	129	86	108	139	148	94	103	124	164	152
	人員	125	87	80	108	116	84	126	155	169	162
あへん	件数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	人員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
合計	件数	274	220	327	383	564	286	286	348	472	409
	人員	291	247	316	374	595	330	367	443	563	475

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

（注）令和6年12月12日以降、大麻は麻薬及び向精神薬取締法における麻薬として規制されることとなったが、同月12日から31日までに麻薬及び向精神薬取締法違反として検挙した人員については「大麻」の項目へ計上し、「麻薬・向精神薬」の項目から除外している。

●危険ドラッグ事犯検挙人員

(人、%)

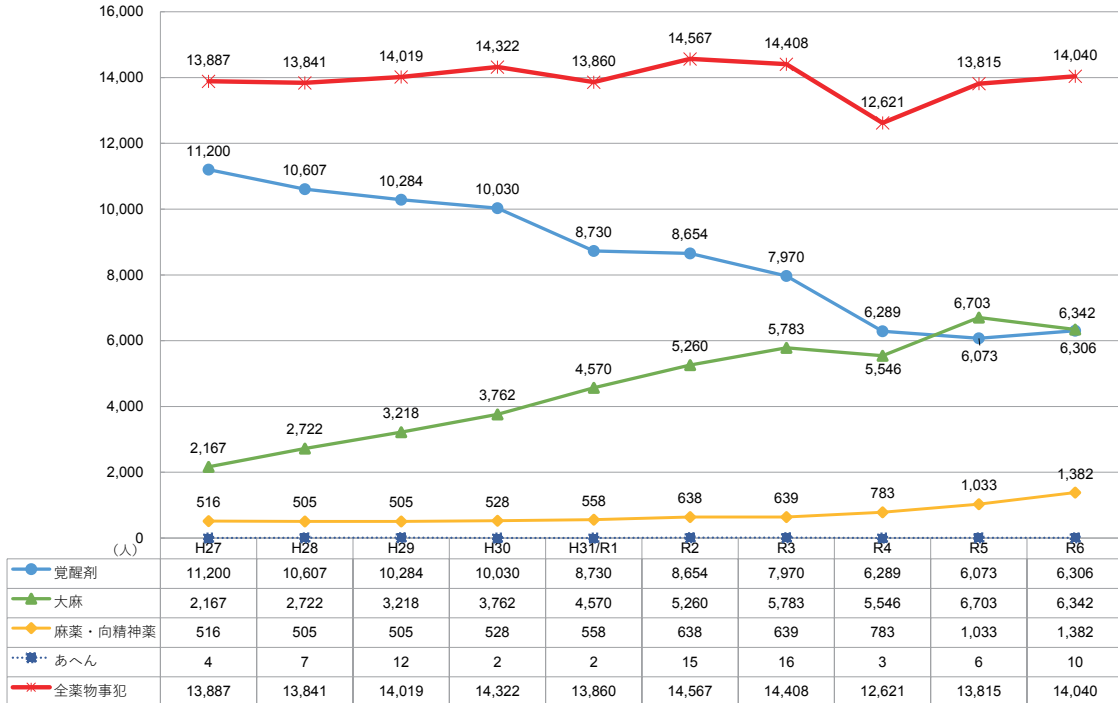
		H29	H30	H31・R1	R2	R3	R4	R5	R6
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反		653	383	183	140	130	275	340	486
	うち少年	2	1	1	2	3	17	29	41
	構成比 (%)	0.3	0.3	0.5	1.4	2.3	6.2	8.5	8.4
医薬品医療機器法違反以外の法令違反		73	50	17	19	34	37	104	259
	うち少年	0	0	1	0	0	3	9	45
	構成比 (%)	0	0	5.9	0	0	8.1	8.7	17.4
合計		726	433	200	159	164	312	444	745
	うち少年	2	1	2	2	3	20	38	86
	構成比 (%)	0.3	0.2	1.0	1.3	1.8	6.4	8.6	11.5

出典：警察庁、厚生労働省、海上保安庁（厚生労働省集計）調べ

（注）医薬品医療機器法違反以外の法令違反とは麻薬及び向精神薬取締法違反、交通関連法令等。

薬物事犯検挙人員の推移

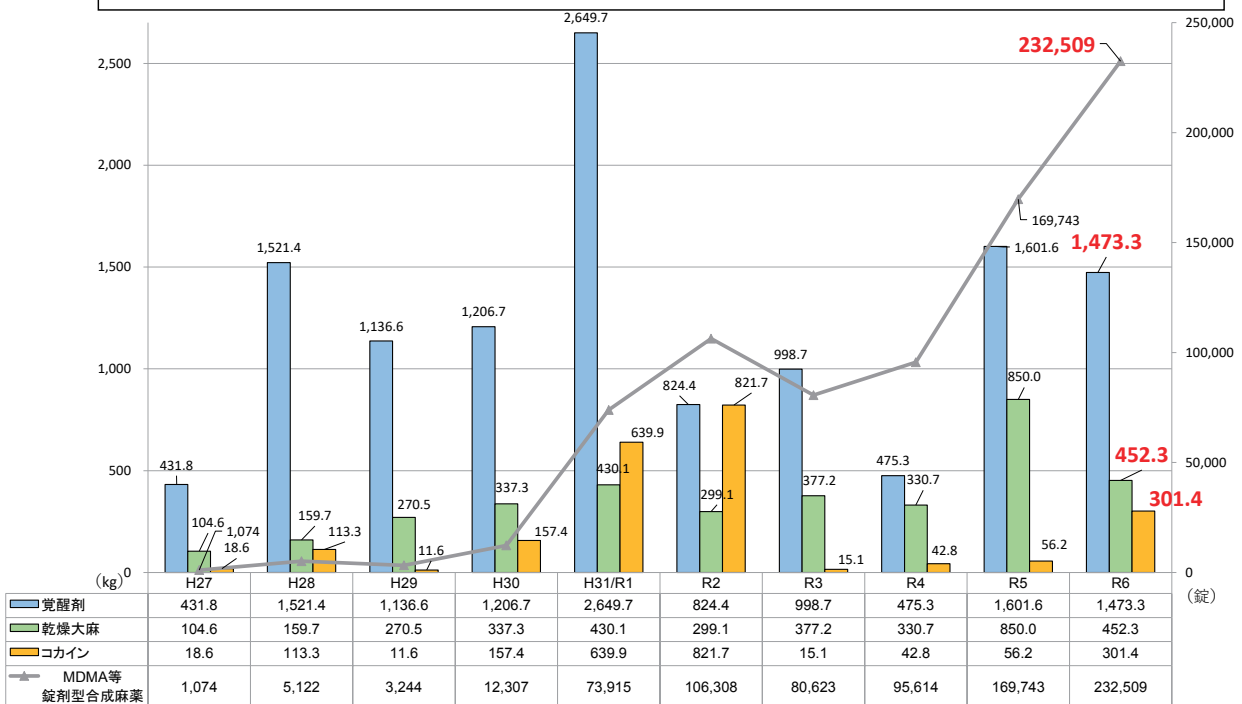
- 薬物事犯全体の検挙人員は、**前年より増加した**
- 大麻事犯の検挙人員は、減少したものの同水準で推移し、依然として覚醒剤の検挙人員を上回る結果となった
- 麻薬事犯の検挙人員は、**過去10年で最多であった前年よりも更に増加した**



1

薬物押収量の推移

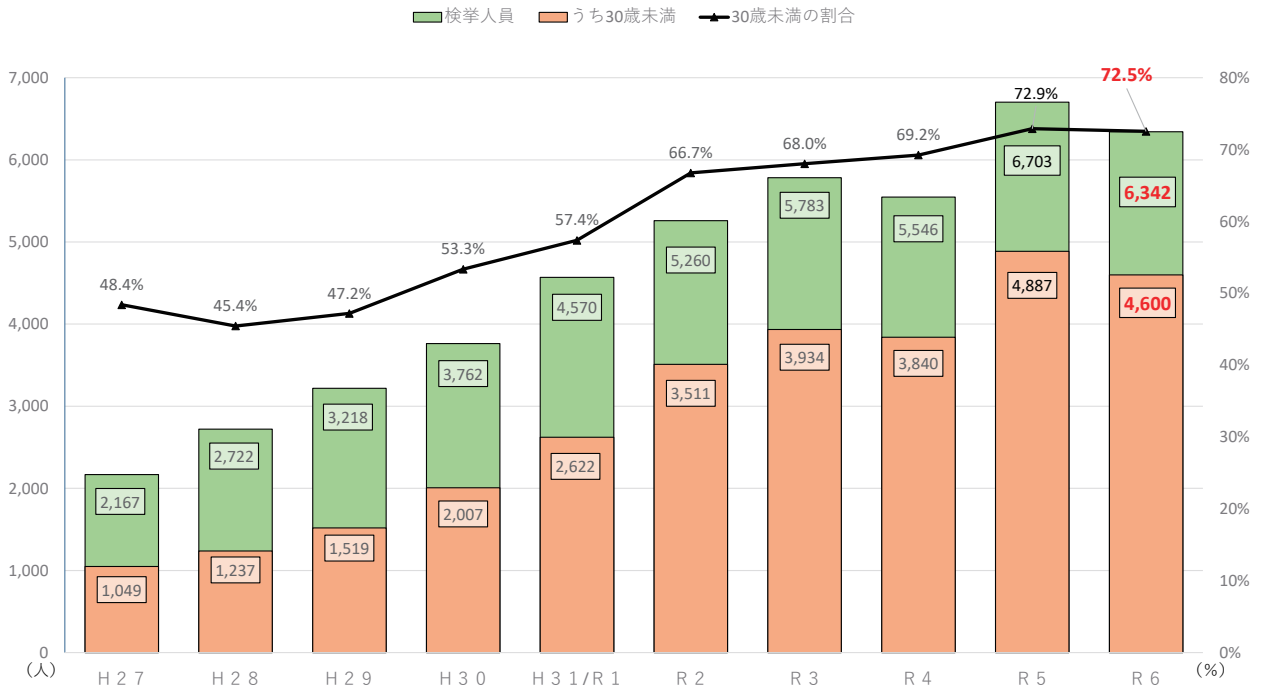
- 覚醒剤押収量は、**前年より減少し、約1,470キログラムを押収**
- 乾燥大麻押収量も**前年より減少し、約450キログラムを押収**
- MDMA等錠剤型合成麻薬押収量は、**前年より大幅に増加**



2

大麻事犯における検挙人員及び30歳未満の割合

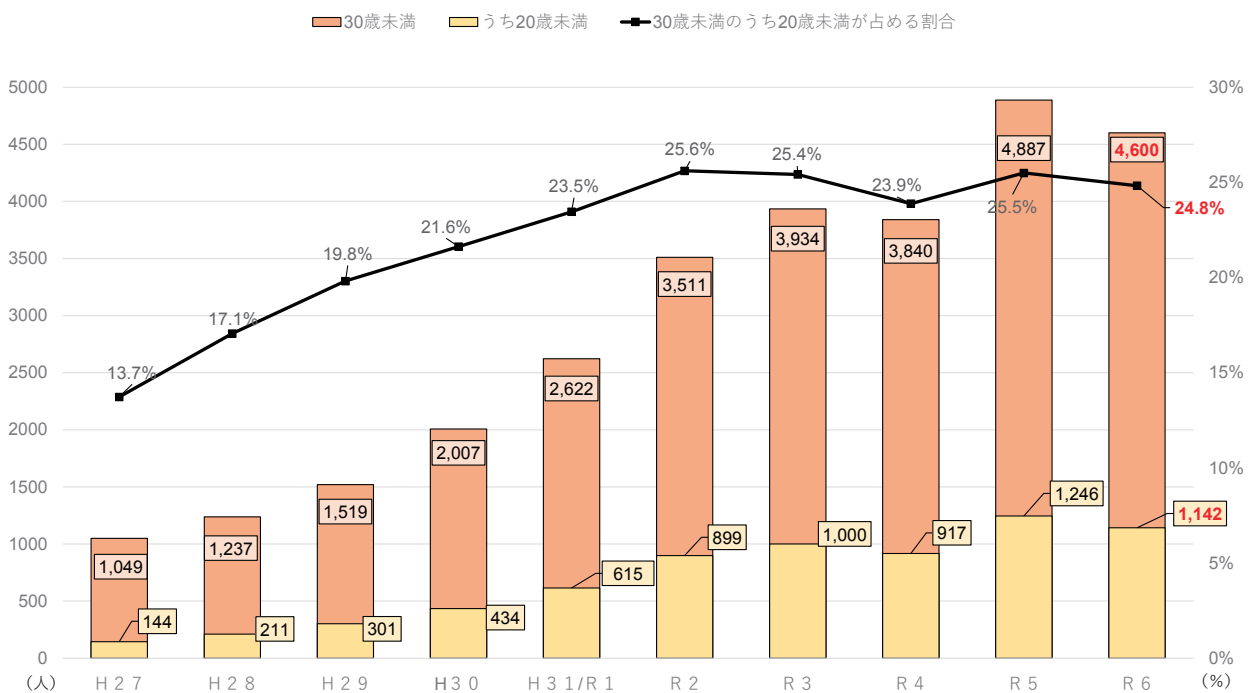
- 大麻事犯における30歳未満の検挙人員は、過去最多であった前年より減少
- 大麻事犯の検挙人員のうち、30歳未満が占める割合は72.5%



3

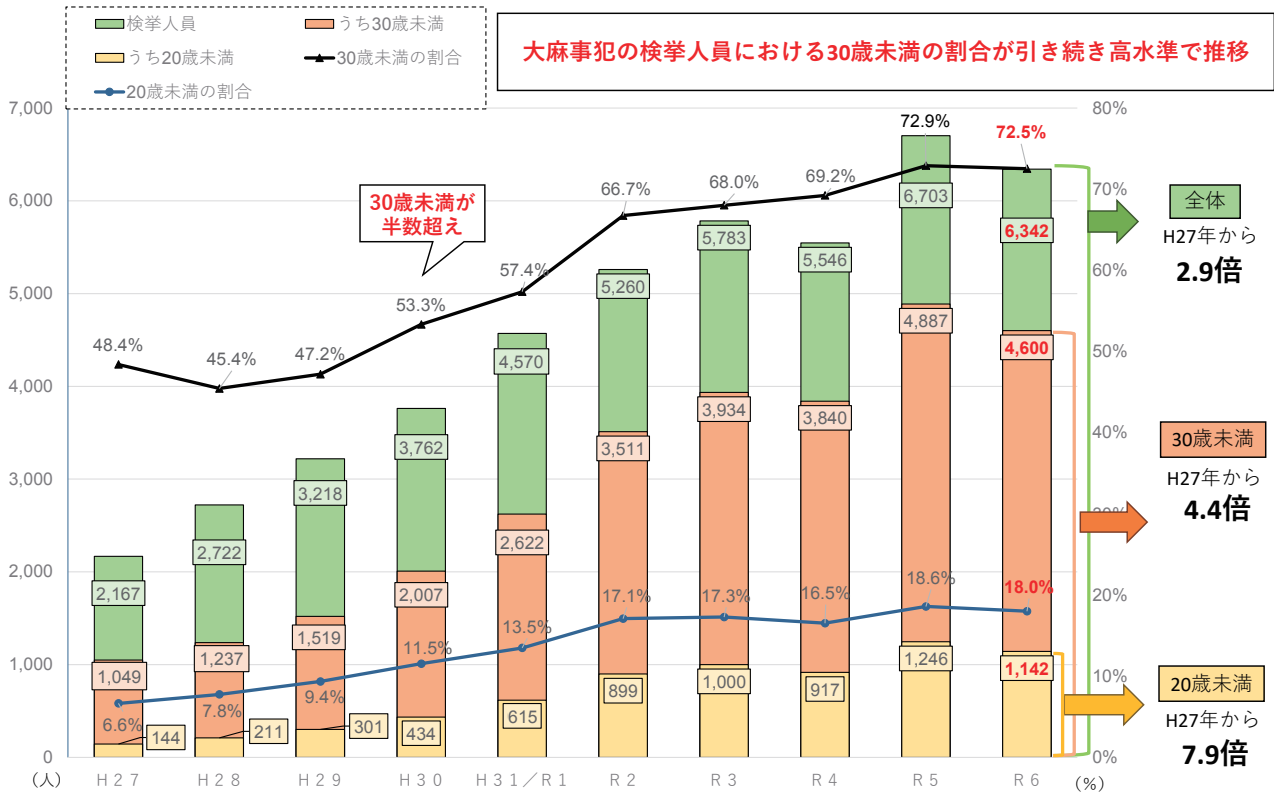
大麻事犯における20歳未満の検挙人員

- 大麻事犯における20歳未満の検挙人員は、過去最多であった前年より減少
- 30歳未満の検挙人員のうち20歳未満が占める割合は24.8%



4

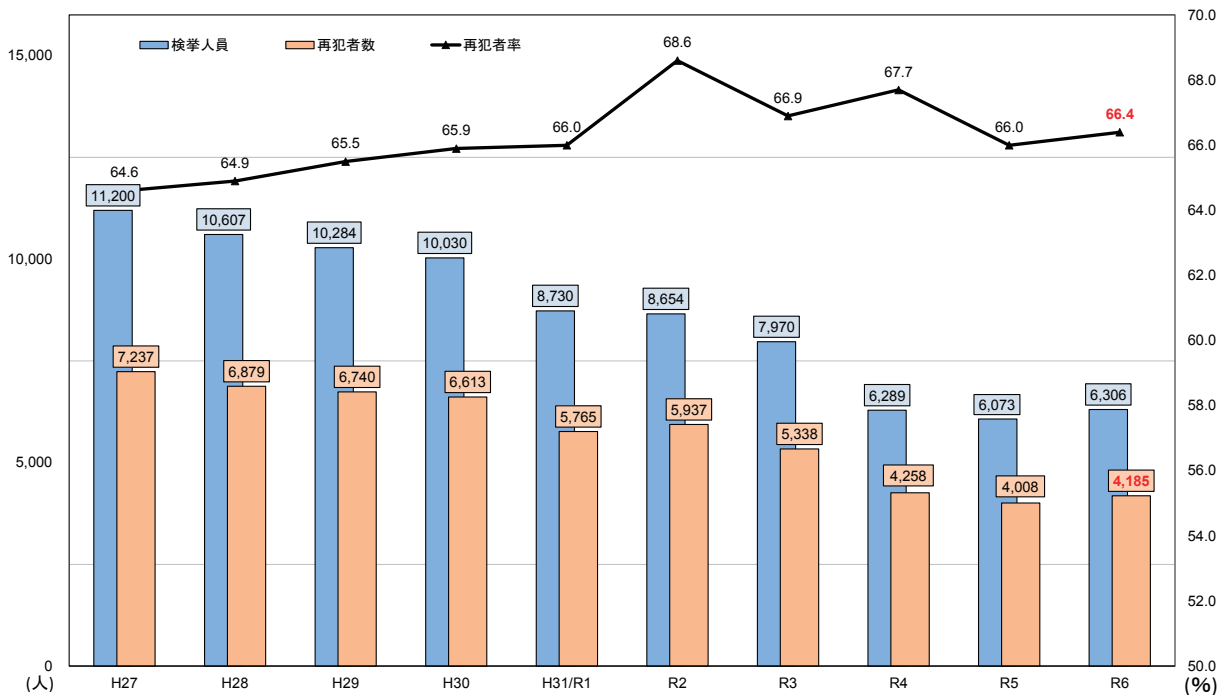
大麻事犯における検挙人員の推移（年齢別）



5

覚醒剤事犯における再犯者率の推移

○覚醒剤事犯の再犯者率は、前年よりわずかに増加して**66.4%**



6

○「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金適正化委員会の開催状況

2025年度国連支援募金適正化委員会は、2026年2月3日(火)東京都千代田区の霞山会館・輪花の間で開催され、募金運動結果報告(募金総額26,385,864円)及び国連寄付金(12,800,000円)、都道府県実行員会への配分金(3,156,500円)について了承されました。



○「がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会」の開催状況

本講習会はがん医療に携わる医療関係者を対象に、WHO式がん疼痛治療法の全国への均てん化を図るため、専門家の先生による症例を含めた講演をもとに、医療用麻薬の適正使用による患者のQOLの向上や家族の理解を得た疼痛緩和医療が早期段階から推進されるよう、厚生労働省との共催で実施しています。

2025年度は全国8か所の都道府県(大阪、香川、大分、愛知、山形、茨城、千葉、福井)において、会場あるいはオンラインによるハイブリッド方式で開催し、医療用麻薬の適正な使用の推進に努めています。



○「薬物乱用防止教育認定講師養成講座」の開催状況

ライオンズクラブ国際協会と当財団では、全国のライオンズクラブメンバーを対象にした指導者育成事業を主催、実施しています。(後援：文部科学省・厚生労働省・警察庁・こども家庭庁)

2025年度は、3月末までに全国45会場で講師養成講座を開催し、約2,000名の方が当財団の認定講師として認定される予定です。認定後は、所属クラブエリアの小・中・高等学校等で実施される薬物乱用防止教室の講師として活動いただくほか、地域と連携したさまざまな薬物乱用防止活動に参画いただいています。



○当財団藤野理事長 書籍出版のお知らせ

当財団理事長が書籍「教養としての麻薬」を出版いたしました。医療や研究の分野で重要な役割を果たす一方、密造・密輸・乱用といった問題も抱える麻薬について、国際規制の進化と現代の我々が知るべき事柄を、豊富な一次資料と現場経験にもとづいてわかりやすく解説した一冊です。当財団理事長が、国連職員として30年にわたり麻薬規制に携わってきた経験と知見をもとに、「なぜ麻薬は規制されてきたのか」という根本的な問いに迫ります。現代社会における薬物問題を理解し対処するための基本的かつ不可欠な視点とその根拠を提供しています。

「教養としての麻薬」 著者：藤野彰 あさ出版 ISBN：9784866677880
定価：2,750円(税込)



若者を対象とした初の国際ウェビナーを開催

～ウガンダ NGO 団体と共催～

2025年11月、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターは、ウガンダのNGO団体「Uganda Youth Development Link」(以下UYDEL)と共催にて、若者を対象としたウェビナーを開催しました。

このウェビナーは、乱用防止のための非公式な“国際プラットフォーム”形成の取り組みの一環として実施されました。このプラットフォームは、2023年にウィーンで開催された国連麻薬委員会(CND)定例会期の際に、日本政府主催の「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金30周年記念のシンポジウムにおいて、当財団の藤野理事長が提言したものです。「予防から早期発見、治療に始まり、教育、アフターケア、更生、最終的に社会復帰に至る実践的で革新的なアイデアを推し進め、薬物乱用防止に互いに協力しながら創意工夫をして取り組めるようにする」というアイデアのもと、UYDELと当財団が主体となって形成推進しています。

日本とウガンダからの若者を中心とした40名ほどが参加した今回のウェビナーは、国際プラットフォーム形成の鍵となる、若者のための薬物乱用防止を推進していくために日本とウガンダの学生が具体的な提案の発表を行い、その後学生同士で質問や議論を展開しました。



ウェビナーの様子

ウェビナー内容について

ウェビナーではまずウガンダの学生2名より、若者の薬物乱用の背景(高い失業率、仲間からの圧力など)と、音楽や寸劇、またスポーツなどを取り入れた乱用防止に向けた取り組みが紹介されました。また日本からは、都内の大学生であり、教育プログラム開発・提供企業の共同創設者でもある堀口野明氏から、自身の友人を例に、米国において大麻乱用が才能豊かな若者の将来を破壊してしまっている現況が語られました。さらに同企業が提供する「闇バイト」に陥らないための啓発やインターネット上の誤情報を見分ける力の向上を目的とした、ゲーム要素を取り入れたプログラムが紹介されました。その上で、このプログラムを薬物乱用防止の教育啓発に応用すべく、当財団と連携して今後取り組んでいく旨が述べられました。締めくくりとして、当財団理事長の藤野より、若者の多様な視点がこの国際プラットフォームの概念設計にとって欠かせず、今回のウェビナーは今年秋に山口県内にて開催予定のアジア・アフリカ地域を対象とする国際フォーラム構想において、重要なマイルストーンとなるとの認識が示されました。

今後も世界的な薬物乱用防止ネットワークの土台となるプラットフォームの形成と充実に向け、各国の団体や関連機関と連携しつつ、若者に焦点を当て、また若者による薬物乱用防止推進のため、活動を拡張していきます。



令和7年度 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動地区大会

「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動」は、薬物の危険性・有害性をより多くの国民に知っていただき、一人ひとりが薬物乱用に対する意識を高めることにより、薬物乱用の根絶を図ることを目的として、毎年10月、11月の2か月間にわたり全国的に展開されています。

令和7年度は全国6地区(福島、東京、静岡、京都、徳島、沖縄)にて開催されました。東京大会については、プログラム内の『「NOと言える勇気」応援隊の薬物乱用防止セミナー』において、当財団総務部長の河邊正和が登壇しました。とにかく明るい安村さんなど芸人による薬物をテーマにしたコントを受けて、薬物の種類や乱用に至るきっかけなど解説をし、仲間から薬物に誘われたとしてもプレッシャーに流されず断ってほしいと呼びかけました。

薬物乱用防止運動東京大会の開催概要

1. 開催年月日 令和7年11月24日(月・祝) 13:30より
2. 開催場所 東京都庁第一本庁舎5階 大会議場
3. 主催団体等
主催：厚生労働省、東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会
共催：警視庁
後援：公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター
協賛：特別区長会、東京都市長会、東京都町村会
4. プログラム内容
 - 1 式典 主催者等挨拶
 - 2 表彰式 薬物乱用防止功績者、ポスター・標語東京都選考入賞者、高校生会議参加校への表彰
 - 3 薬物乱用防止高校生会議活動成果発表
 - 4 アトラクション 「NOと言える勇気」応援隊の薬物乱用防止セミナー
 - 5 大会宣言 薬物乱用防止セミナー出演者及び薬物乱用防止高校生会議参加生徒による宣言



東京大会の様子



登壇する当財団 総務部長河邊(中央)
(右：MCのおいでやす小田さん 左：アシスタントの亀井京子さん)

ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

2025年2月1日から2026年1月31日までに、当センターにご寄付
いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。
ご協力ありがとうございました。

〔ご寄付団体〕

呉・竹原地区薬物・銃器・密航者・水際阻止ネットワーク様
東京八王子陵東ライオンズクラブ様 東京恵比寿ロータリークラブ様
一般社団法人日本薬局協励会様 牛久ロータリークラブ様
松本西南ロータリークラブ様

〔ご寄付個人〕

花岡真寿美様	Suda Parie様	鈴木砂子子様	阿部 清様	塩満 典子様
横山 良和様	古賀健太郎様	古山 成則様	古川 元晴様	佐々木敏恵様
佐藤 真也様	志岐 大翔様	西原 央様	扇谷 斉彬様	中井由紀子様
中崎 麻美様	田口のぞみ様	藤野あゆみ様	藤野 なな様	藤野 彰様
板井 斎様	樋田麻由美様	武田 健様	若園 和朗様	神野 正啓様
菅家 奈央様	鈴木 勉様	鈴木 猛夫様	和田 光弘様	脇田 敦子様
	小池 和子様	木更津ライオンズクラブ	栗田 秀美様	

〔法人賛助会員〕

エスエス製薬株式会社様 株式会社 豊島様
UUUM 株式会社様 丸石製薬株式会社様 一般財団法人 東京都警察懇話会様
株式会社アムズメディカル様 株式会社オーミヤ建設様
日本大学本部競技スポーツセンター様

〔個人賛助会員〕

吉田 正利様	空閑 正樹様	川江 修様	竹井 早苗様	荒木 貞雄様
秋吉 克紀様	石原 俊也様	石井 征二様	池田 冬美様	井田 和男様
岡田 譲治様	大屋 博様	荻野真由美様	神垣 鎮様	神澤 正三様
梶原 正和様	金子 雄一様	川久保啓一様	北川けい子様	黒宮 恵様
小池 和子様	小山 功男様	小清水征次様	児玉金之助様	佐藤精一郎様
篠原久仁子様	鈴木 孝様	杉谷 宏枝様	鈴木 正二様	千葉 信雄様
津村 信彦様	寺田 義和様	徳山 尚吾様	中村 楯夫様	中嶋 敏次様
仲 眞美子様	鳴戸 大二様	根津万寿夫様	野々 晴久様	原 恒道様
藤山 智雄様	古木 光義様	古瀬 智之様	福田 将己様	松石 高之様
松本 佳久様	丸井 一弘様	三口 巖様	村岸 治幸様	村島 吉豊様
村田 昭夫様	村松 滝夫様	森 和弘様	森 一男様	山本 稔様
山本 章様	矢口 博行様	山田 順子様	吉川 研司様	横路 望様
和田 義広様	和田 裕幸様	若杉 和久様		

この他 多数の皆様よりご寄付をいただき、ありがとうございました。

[ご寄付・賛助会員のお願い]

青少年への薬物乱用防止活動、認定講師育成やボランティア支援、UNODCを通じた国際協力などの様々な活動は、皆様からの継続的なご支援に支えられています。

○ご寄付のお願い

薬物乱用の未然防止により、未来を担う子供たちの心身共に健全な育成をはかるため、当財団の活動に皆様の浄財によるご支援をいただきたく、ご寄付のお願いをいたします。

○賛助会員募集

当財団の目的・趣旨にご賛同いただける個人、団体（法人）の賛助会員を募集しております。



寄付ご案内ページ
QRコード



賛助会員ご案内ページ
QRコード

[メルマガ登録のご案内]

○薬物問題の最新情報、乱用防止についての基礎知識や啓発情報、医療用麻薬の適正使用について等、薬物を取り巻く様々な情報の中から有用と思われる内容を皆さまと共有するため、当財団より『メールマガジン』で配信しています。（年4回定期配信、臨時配信も予定）ぜひご登録ください。



メルマガ登録
QRコード



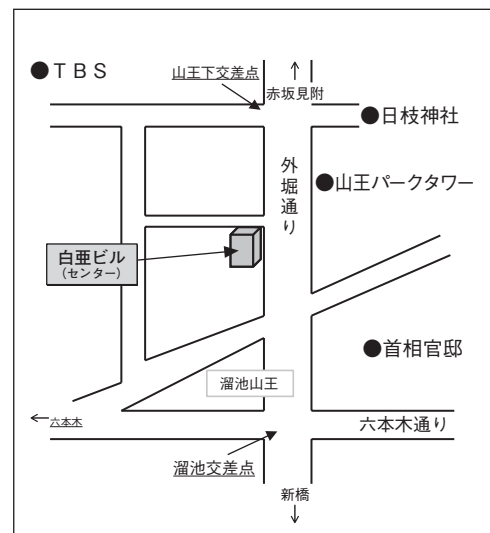
公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-4-1 (白亜ビル9F)

TEL.03 (5544) 8436 ~ 7 FAX.03 (5544) 8473

ホームページアドレス <http://www.dapc.or.jp>





Fly for Life.
大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用医薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 インターネットホームページ <https://www.taisho.co.jp>

©製品についてのお問い合わせは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30~17:00(土・日・祝日を除く)

健康づくりは幸せづくり
ゼリア新薬
ZERIA

関節痛を治せ!
Mr.コンドロイチン!

第3類医薬品
コンドロイチンZS錠

ゼリア新薬の

飲む **治すなら、**
関節痛治療薬 ※

※関節痛に効く内服薬

つらいヒザ、
コシの痛みにも。

ヒザ
コシ

【効能・効果】関節痛、腰痛、五十肩など
薬局・ドラッグストアでお買い求めください。
ゼリア新薬工業株式会社
お客様相談室 03-3661-2080
(9:00~17:50 土・日・祝日を除く)
<https://zs1560.jp> **コンドロイチンZS錠** 検索



この日は
5月18日は
サロンパスの日

当社従来品に比べて
包装サイズを小さく
しました。

今日貼ッ、
いい明日



Hisamitsu®



TEAM JAPAN オフィシャルパートナー
(外用鎮痛消炎剤、筋肉疲労ケア製品、医療用サポーター)

久光製薬はTEAM JAPANを応援します。

Salonpas®
サロンパス®

肩こり・腰痛・筋肉痛に【第3類医薬品】

肩にも
足にも



詳しい商品情報
はこちらへ▼



©この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。
TEL.0120-133250 受付時間/9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く)

サロンパス 検索 www.hisamitsu.co.jp

のどを潤す名人芸。

水なしで飲む、のど直接うるおう

龍角散ダイレクト®

生薬製剤

シュガーフリー

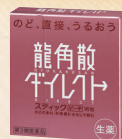
眠くなる成分未配合

株式会社龍角散 お客様相談室 03-3866-1326(土・日・祝日を除く)

※「龍角散」「龍角散ダイレクト」「ゴホン」といえば龍角散は(株)龍角散の登録商標です。



龍角散ダイレクト®
スティック ミント
【第3類医薬品】



龍角散ダイレクト®
スティック ピーチ
【第3類医薬品】



龍角散ダイレクト®
トロロチ マンゴー-R
【第3類医薬品】

たん、せき、のどの炎症による声がれ・のどのあれ・のどの不快感

※服用の際は説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ゴホンといえは
龍角散
Ryukokusan